

保健福祉学部（①教育・学生支援）

基本計画	2018年度までの到達目標
学部	
<p>保健福祉学部及び看護・福祉・栄養学科のDPを達成し、有能で思慮深さをもった専門職者を社会に送り出す。</p> <p>全学FD活動と連携しつつ、個別チームによるFD活動（業務改善活動）又は教育実践を対象とした研究を奨励し、成果の共有を図る。</p>	<p>①2018年度より新カリキュラムが始まり、円滑に実施されている。</p> <p>②成績や授業評価アンケートの結果などから、教育実践評価のマクロな視点が得られ、又は授業評価アンケートが改善されている。</p> <p>③個別チームによるFD活動又は教職員による教育実践研究が進んでおり、成果が共有されている。</p>
<p>学生参加による地域貢献活動を通しての学びを重視し、環境整備に努める。</p>	<p>④「高齢者支援学Ⅰ」がスタートし、一定の参加者を得て、所定の成果を上げはじめている。</p> <p>⑤地域の高齢者が参加できる授業あるいは公開講座等が行われ、所定の成果をあげ始めている。</p> <p>⑥学生参加による地域貢献活動の全学的な方針が示されている。</p>
看護	
<p>生活・学習支援の充実を図り、学生一人ひとりの学力向上を目指す。</p>	<p>①授業の課題以外に学習に取り組んだ学生の割合</p> <p>2015年前期（授業評価） 21.8% → 2018年 50%</p> <p>②授業を振り返るために1回30分以上の復習を1度もしなかった</p> <p>2015年前期（授業評価） 44.7% → 2018年 10%以下</p> <p>③看護師国家試験ならびに保健師国家試験の合格率100%を目指す。</p>

保健福祉学部（①教育・学生支援）

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>看護専門職を目指している自覚と目的意識をもち、積極的に行動できる学生を育成する。</p>	<p>①大学外の学習（講演会、学会）や活動（ボランティア、海外視察）に参加する学生を増やす。</p> <p>②高齢者支援学Ⅰ・Ⅱの学生の選択率の向上に努める。</p> <p>2018年度 高齢者支援学Ⅰ…30%以上</p> <p>2020年度 高齢者支援学Ⅱ…20%以上</p> <p>③2018年度までにカリキュラム改訂を実施する。</p> <p>④キャリア教育を充実させ、学生が自らの看護観をもつ。</p> <p>⑤学年を超えた交流会を、年2回程度開催する。</p> <p>⑥2018年までに、学生の主体的交流サークルを育成する</p> <p>⑦保護者への情報提供、相談の場の提供等、双方向の情報交換を充実させる。</p> <p>⑧看護学科ブログの周知を図り、ブログの閲覧数を年々高める。</p>

保健福祉学部（①教育・学生支援）

基本計画	2018年度までの到達目標
福祉	
<p>生活学習支援の充実を図る。 2018年度より新カリキュラムを実施する。</p>	<p>①2016,17年度で、導入教育の充実、開講科目を再検討し開講年度を含めたカリキュラムを再編する。 ②養護教諭の採用試験対策についてシステムを確立し、現役合格数を高める ③スクールソーシャルワーク関連科目を開設する。 ④国家試験合格率を、社会福祉士45%、精神保健福祉士100%目標とする。 ⑤専門分野別リカレント教育を可能な分野から実施する。</p>
栄養	
<p>受験生に選ばれる学科となるための戦略目標を立て、実行する。</p>	<p>①従来の管理栄養士+栄養教諭の2本柱あるいはフードスペシャリストを加えた3本柱以外の道を模索する。具体的には、登録販売士、介護職員初任者研修資格、介護食士、調理師などの導入について審議し、可能なものから実行に移す。</p>
<p>管理栄養士国家試験受験者数を入学定員に近づける。</p>	<p>①管理栄養士国家試験受験者数が、2,3年以内に入学定員の100%となることを目指す。 ②栄養士・管理栄養士専門職での就職率が全国平均以上となるよう努力する。</p>

保健福祉学部（②学生募集）

基本計画	2018年度までの到達目標
学部	
<p>安定的に定員確保を行い、学生の学びの環境を確保、持続可能な学部運営を保証する。</p>	<p>①保健福祉学部の総受験者数は800名以上である。 ②COC+（CCRC推進）の取り組みなどが、各年度の事業計画を着実に実施し、PDCAサイクルを形成している。 ③②の取り組みの広報は、遅滞なく本学のウェブサイトに掲載されている。 ④その他、広報されるべき情報がもれなく広報されているかを時期を決めて確認している。 ⑤保健福祉学及び周辺領域の受験動向に関するデータが整理され、利用できる。</p>
看護	
<p>2018年度まで継続的に、入学者定員数を満たす学生を看護学科に入学させる。</p>	<p>全入試形態を通しての看護学科への入学者数を2015年度の入学者数程度に維持する</p>
福祉	
<p>2018年度まで継続的に入学者定員を確保する。</p>	<p>①定員80名の確保を維持する。 ②30名の入学者を確保する。 ③2018年度より再編したコース募集を実施する。</p>
栄養	
<p>卒業までに取得できる新たな資格の準備、カリキュラム改革などにより学科のイメージを一新し、入学者定員の確保を図る。</p>	<p>①2016年度中に、栄養学科教育内容改革案を作成する。 ②2017-2018年度に改革案を具体化する。 ③2019年度入試までに、栄養学科受験者数の減少傾向を解消させる。</p>

保健福祉学部 (③地域貢献)

基本計画	2018年度までの到達目標
学部	
<p>大学と地域の交流を図り、地域住民の健康と福祉に貢献する。そのための基盤整備と連絡調整に努力する。</p>	<p>①地域連携室（仮称）など地域貢献活動の情報収集と連絡調整の部門が確立している。</p> <p>②2017年度には学生参加の地域貢献活動の課題が整理され、協議の対象となっている。</p> <p>③2016年度の早い時点でCCRC推進計画が明示され、CCRCの構築に向けた取り組みが着実に進んでいる。</p> <p>④2018年度より「高齢者支援学Ⅰ」が始まり中間的評価が行われている。</p> <p>⑤地域の高齢者が参加できる授業あるいは公開講座等が行われ、所定の成果を上げ始めている。</p> <p>⑥学生参加による地域貢献活動の全学的な方針が示されている。</p> <p>⑦三学科の（可能なら全学的な）地域貢献活動の経験交流の場が設けられている。</p> <p>⑧本学の地域貢献活動が学生募集に良い影響を与えている。</p>
看護	
<p>地域社会との交流の活発化及び看護職に対する生涯学習支援</p>	<p>①学生による地域住民への健康支援活動を実施している</p> <p>②教員による近隣地域住民への健康教育活動を実施している（セミナー、公開講座、定期的な健康相談）</p> <p>③COC+、CCRCと連動して、他学科、産・官、実習関連施設等との連携・協働による健康教育を実施している</p> <p>④実習病院・看護キャリア支援センター等と連携し、看護職の生涯学習を支援する社会貢献活動を展開している。</p>

保健福祉学部 (③地域貢献)

基本計画	2018年度までの到達目標
福祉	
COC+ (CCRC構築) 事業をはじめとする地域貢献活動を推進する。	①これらの地域貢献活動が学生教育の場となるように、その課題を整理し、さらなる改善に向けて協議する。 ②高齢者支援学Ⅰが始まり、中間的評価を行う。
栄養	
(3) COC+ (CCRC構築) 事業を始めとする地域貢献活動を推進する	①他学科、他大学との協議のもと、高齢者支援学Ⅰ、Ⅱの内容充実と、学生の選択率の向上 (2018年度で70%以上) に努める。 ②COC+ (CCRC構築) 事業に積極的に参画し、産 (病院、老人ホーム、食品企業、その他企業体) と学の共同研究や社会活動を推進し、地域貢献の主体となる若い人材を輩出する (卒業生の地元就職率を向上させる)。

保健福祉学部 (④研究)

基本計画	2018年度までの到達目標
学部	
<p>研究活動の基盤整備を進める。</p> <p>教育活動の改善充実を目指す研究，地域の保健福祉の諸問題の解明につながる研究を奨励する。</p>	<p>①教員の研究へのニーズが明確になり，若手研究者へのサポートが展開できている。</p> <p>②各学科より科研費申請が行われ，総件数が年間20件を超えており，平均的な採択率を維持している。</p> <p>③学科を超えた共同研究，教育実践や地域貢献活動を対象とした研究プロジェクトが進行している。</p>
看護	
<p>学科における研究を促進するため組織的な研究支援体制の構築を図る</p>	<p>①学科における研究カンファレンスの開催（2～4回／年）。</p> <p>②外部資金の獲得を目指す （2018年度目標：科研費申請20件&採択5件）</p> <p>③保健医療・福祉・食等に関する他学科・他大学・医療関連企業との共同研究を推進する</p> <p>④学科ホームページ等で外部へ学科における研究成果の発信</p>
福祉	
<p>学科における研究を促進するため組織的な支援体制を構築する</p>	<p>①学科における研究情報交換会を開催している。</p> <p>②科研費の申請件数が5件を超え、採択率20%以上を維持している。</p> <p>③他学科との共同研究が行われている。</p>
栄養	
<p>学科として、教育実践活動や地域貢献活動に重点をおいた教育研究活動の活性化に努める。</p>	<p>①2019年度科研費申請件数20件を目指す（2016年度実績13件）</p> <p>②卒業研究・卒業ゼミの開始時期を3年後期とし、教育研究活動の活性化を図る。</p>

人文学部 英語学科

基本計画	2018年度までの到達目標
教育の質保証を推進する	①外部の英語力評価試験が導入され、かつ平均点が向上している。例えば、信頼度の高いVELC Testで、年間30～40点平均点が向上している。 ②「基礎演習Ⅰ」から「卒業研究」に至るまでの演習科目を中心に、論理的思考養成の道筋が確認できている。 ③各教員がその特徴を最大限に発揮している。 ④英語学科の学生が、継続的にLanguage Loungeを利用している。 ⑤入学前の事前課題がon line e-learning systemとして整えられ、参加者が20人以上になっている。 ⑥「キャリア開発」には20人程度が履修している。
学生募集の改革をさらに進める	①英検2次面接対策講座は20人以上が参加している。 ②オープンキャンパスの進め方がブラッシュアップされ参加者数が増加している。
国際交流を推進する	①留学生の学修支援プログラムがブラッシュアップされている。 ②正規の授業として開講されている「欧米文化交流研修A・B」及び「アジア文化交流研修A・B」や、半年/一年間の留学制度、及び短期の海外語学研修等に、これまでよりもさらに多くの学生が参加できるように、プログラムの内容の充実が図られている。 ③開発途上国の教育支援活動に参加する学生数は、毎年最低10名以上である。

人文学部 英語学科

基本計画	2018年度までの到達目標
学生支援を強化する	①各教員に対する学生達からの信頼が獲得されている。 ②過去5年間、毎年90%以上の安定した就職率が維持されているが、今後は、毎年就職率95%以上を目標とする。 ③礼節と積極的な行動力を持つ学生が育成されている。
高大連携を推進する	①近隣の高等学校との高大連携事業が実施されている ②近隣の高等学校英語部の生徒が継続的に参加できている。 ③English Lectureに毎回高校生が複数名参加している。 ④Language Loungeが近隣の高校生に開放できている。
地域貢献を推進する	①年に2回、JICA九州の研修員を受け入れている。 ②年に1回、アジア女性交流フォーラムのワークショップなどの企画・運営に参加している。 ③教職課程を履修する学生全員が学修支援に参加している。

観光文化学科

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>教育の質と教育力を高める</p>	<p>①読書をしない学生の率が、全国平均（2016年2月28日報道45%）を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベースとして文章能力が向上している。 ・中国語検定試験の受験者数を、在学生数全体の10%程度に引き上げる（2015年度末では23名受験、全体269名の8.6%） <p>国家資格試験対策の授業を、在学生数の10%程度が受講している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度充実した演習になっている。 ・貸出数が2015年度末比50%増大している。（図書館の本学科学生1人当りの図書・雑誌貸出冊数は、2015年度14冊） ・2018年度「ビジネス演習」が開講され、必修科目として履修されている。 <p>⑦インターンシップ（選択科目）は、就職希望者においては事実上必修科目に近い履修率であるが、90%台を維持する。</p> <p>2018年度新規カリキュラムが開始されている。</p> <p>学科FDが実施されている。</p>

観光文化学科

基本計画	2018年度までの到達目標
安定的に定員を確保する	<p>①オープンキャンパスの入場者が2015年(80名) に比べて、2018年度には20%増えている。</p> <p>②外国人留学生獲得のために、2017年度には指定校を増やしている。指定校への働きかけを活発化している。(ここは、2017年度に一校増やしたのでそれ以上は増やさない)</p> <p>③早ければ、2018年度より、編入学試験が行われている。</p> <p>④社会人入学制度のような多様な入学試験が行われていて、学生に良い影響を与えている。</p>
地元産業と地域の活性化に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生ボランティア活動を通して、学生が社会で鍛えられている。 ・学内外のボランティア活動はあくまで自主的意志からの参加であるが、2016年度入学者からは、学生が一度は在学中に体験するように促がして、学生の6割以上が体験するようにする。 ・学生の意識を高めるために、各種の活動の報告会を開催している。それにより、続く学生が育っている。 ・WILLについては、毎年20～30名のメンバー維持されている。 ・新しい市民向け公開講座が開講されている。
国際交流を推進する	<p>協定校、認定校との交流が維持されている。それらとの関係の見直しが継続されている。</p>
学生支援を強化する	<p>退学率（現状0.7%）が2%を下回っている。国の示している数字を下回るように維持する。（H26年9月25日 文部科学省発表では、2.65%）</p>

助産別科

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>1. 学生募集に関すること</p> <p>受験生を確保し、安定的な定員人数を確保する。</p>	<p>1) 看護学科からの進学者を推進している。</p> <p>①看護学科からの進学者を確保する。(3～5名)する。</p> <p>2) 北九州市内からの推薦・一般入学者を推進している</p> <p>①実習施設からの入学者を確保している。(目標：2016年1名以上、2017年～2名以上)</p> <p>②看護学科オープンキャンパス来校の高校生に別科の存在を認知させ将来の進路の一つとして認識を図っている。(目標：2016年3名、2017年～5名以上)</p> <p>③市内の中高生に別科の存在を認してもらう。</p> <p>④地域住民に別科の存在を認知してもらう。</p>
<p>2.教育に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育内容の充実 ・学習支援の向上を図る ・教育内容・教育方法の改善 ・2018年度にカリキュラム改訂を行う ・日本助産評価機構による第三者評価受審 	<p>1) 講義・演習・実習への自主的な学習姿勢が養われている。</p> <p>2) 国家試験合格率100%が維持されている。</p> <p>3) 系統的教育が行われている</p> <p>4) カリキュラムの改訂が行われ、実施されている。</p> <p>5) 第三評価を受審することで助産実践及び教育の質の上と利用者の選択の利便を支援する課題が明確になっている。</p> <p>5)-1 受審プロジェクト編成、計画的に検討がなされている。</p> <p>5)-2第三者評価受審に向けて、別科の業務手順が作成されている</p> <p>5)-3助産実践能力を獲得するための全演習計画の見直しを行い、学生の満足度を評価している</p>

助産別科

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>3.研究に関すること 研究の推進（母子の健康、助産実践、性教育）</p>	<p>1) 研究を計画的に推進している 2) 研究に関する研修・報告会・学会参加を推進されている</p>
<p>4. 地域貢献・産官学連携 1) 中高生に向けた性教育の実施 2) 勤務助産師への教育支援 3) 卒後教育の支援（新卒）</p>	<p>1) 中高生に向けた性教育が実施されている。（2016年度新規1回） 2) 卒後教育支援が継続されている。（2016年：新人助産師教育支援、2017年勤務助産師への教育支援） 3) シニアサマーカレッジを継続し、地域貢献ができている。</p>
<p>5. その他、助産別科独自の取り組み 1) 2017年度全助協九州地区支部会開催に向けての準備と開催 2) 助産別科同窓会支援 3) 学内全学生への健康支援</p>	<p>1) ①2016年全助協九州地区支部会に参加し情報収集が行われている。 ②2017年全助協九州地区支部会を開催し、開催校の役割が果たせるている。 2) 助産別科同窓会交流会が実施されている。 3) 全学生対象に女性の健康問題に関する相談を受けている。</p>

短期大学部 保育科

基本計画	2018年度までの到達目標
I. 人材育成 1. キリスト教精神と建学の精神による人格形成	①専任教員のチャペル出席率80%となっている。 ・専任教員の学院聖書学課出席率80%となっている。 ②チャペル中の学生の私語が無い。
II. 教育内容の充実 2. 魅力あるカリキュラムを構築する	①新しいカリキュラムが構築されている。 ②地方都市における短大部の在り方が明確化されている。 ③既定の教授数を専任教員で確保できている。 ④実践力のある現場経験者を確保できている。 ⑤新学科に向けての妥当な入学定員について議論できている。 ⑥教育補助職員が活躍できている。 ⑦各科目に必要な備品や物品を定員に合わせてそろえている。 ⑧「こども学特別演習」で学生全員がそれぞれの分野で活動できる体制ができている。
3. 明確なDPとCP	カリキュラムとDPとの整合性が確認できている。
4. 現行（2016開始）カリキュラムの評価	①カリキュラムの評価ができている。 ②西南女学院大学と学生の相互受講、聴講体制が整備できている。
5. 学習支援の向上 (学生支援の強化をも含む)	①オフィスアワーが活用されている。 ②退学者数が1%台となっている。 ③-1；事件、事故等々にまきこまれることなく卒業できるよう支援する。 ③-2；学校生活に支障をきたすような日常生活の乱れを皆無とする。 ④やむを得ない事情を除く退学者をゼロにする。

短期大学部 保育科

基本計画	2018年度までの到達目標
6. 教育内容・教育方法の改善	①実習指導がより現場に即したものになるように具体的に指導できる教員体制が構築できている。 ②計画に基づいてAL実施案が向上している。
7. 教育環境の整備	①西南女学院全学の課題として、地域貢献活動を整理して、組織的、計画的に貢献活動が展開されている。
8. ラーニング・コモンズの検討	LCが利用されている。
9. 社会人の学びの支援	長期履修制度導入の予定がたっている。
10. 高い就職率を維持するための キャリア・就職支援の強化	就職率100%が保持されている。
Ⅲ. 教員の人材 11. 教育力と研究力を兼ね備えた優秀な教員の確保	専任教員を確保し、教員一人あたりにかかる負担を軽減させ研修日は確実に研究活動にあてられるようにする。
12. 体系的なFD活動の継続	学科内のFDが実行されている。
Ⅳ. 入学者選抜・学生募集活動の 改革 13. セールスポイントの見直し	①現行カリキュラムの効果が判定され、募集入学者選抜に反映できている。 ②競合校の状況を把握し、本学の強みをだせている。 (強みをどの様にPR、アピールするか) ③一元化、短大存続の意義とその社会的効力について発信できている。
14. 受験生のファン化促進	①具体的な科目構成が決定できている。 ②オープンキャンパス・大学祭への複数参加者が?%増えている。

短期大学部 保育科

基本計画	2018年度までの到達目標
1 5. 学生募集重点地域への戦略的募集活動の強化	①定員が充足されている。 ②北九州地区および下関地区の受験者が?名以上である。
1 6. 学生スタッフの育成	①公開授業まで教育し、学生スタッフとして恥じない力が発揮できている。 ②学生スタッフとして起用できる人材を現在の2倍に増加させる。
1 7. 大学入試新テストへの対応	①受験生の程度が一目瞭然に把握できる方針が確立できている。 ②学科内で意見を統一させ、大学入試新テストの内容次第で活用できる要素があれば、選考方法として利用する。
1 8. 地域、産官学連携の推進と体制の確立	カリキュラム内に地域連携に関連ある科目を設置し、学内外で発表できる体制を整えている。
V. 国際交流の推進 1 9. グローバル化のに向けた国際交流締結の組織的・戦略的強化	国際理解に関連する科目が新設されている。
2 0. 学生の海外体験の機会の拡充 2 1. 国際貢献事業の推進	学科の特徴にあわせて、学生の海外体験の機会を設けている。
VI. 幼稚園に関して 2 2. 幼稚園との連携	附属幼稚園の園児数の増加を図り、学生の教育施設としての質が高まっている。

⑤教学マネジメント

基本計画	2018年度までの到達目標
1. 教育の質を保証するための措置	
<p>(1) 教育の質を保証するための全学的取組に係る組織体制の強化を図る。</p>	<p>①教学マネジメント検討会で計画された教学マネジメントが実施されている。</p> <p>②教育の質を保証するための全学のおよび学科取り組みが行われている。</p> <p>③ I R 推進室の機能が強化され、情報が活用されている。</p>
<p>(2) 教育目的を時代のニーズに応じて具現化した教育課程の編成</p>	<p>①共通教養教育の教育課程編成・実施の方針および学位授与の方針に基づいた新しい教養教育が確立している。</p> <p>①2018年度入学生より新たな時代に向けた教育課程が導入されている。</p> <p>②2018年度導入の教育課程の検証改善サイクル（PDCA）が確立できている。</p>
<p>(2) 教育目的を時代のニーズに応じて具現化した教育課程の編成</p>	<p>①社会人のための履修制度が導入できている。</p> <p>②生涯学習および地域連携を推進するための拠点ができている。</p> <p>③多様な地域のニーズに応える公開講座、地域との連携プログラムや研究活動が展開されている。</p>

⑤教学マネジメント

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>(3) 教育課程の質を保証するための運営推進</p>	<p>①2018年度に導入する教育課程のカリキュラムマップ・ツリー、科目ナンバリングが完成する。</p> <p>②学修ポートフォリオを活用し、学生及び教員が互いに学修成果を確認できる。</p> <p>③成績評価の妥当性を検討し、GPAと学位授与の方針の連動を明確にする。</p> <p>④学修時間の確保、効果的な授業時間割などの教育運営の充実により、学生の学修時間の延長および学生の授業参加満足度の割合を増やす。</p> <p>⑤全学的および学科のFD活動が組織的に行われている。</p>
<p>(4) 教育環境の充実</p>	<p>①アクティブ・ラーニングを推進するための教室等を増やす。</p> <p>②ラーニング・コモンズを設置し、活用する。</p>

⑨地域活動推進

基本計画	2018年度までの到達目標
1. 地域に根ざした歩みを推進するための措置	
(1) 教育と連動した地域貢献の推進	①COC+の取り組みの事業年度計画が着実に実施され、PDCAサイクルを形成している。 ②産学連携によるPBL科目を全学科で実施することを目指す。 ③戸畑D街区において、教育研究活動を実施している。 ④教育課程に地域連携科目を位置づける。
(2) 地域・産官学連携の推進	①産・官・学の取り組みによる地域貢献の推進を図るため、自治体と包括連携協定および企業との連携協定を締結する。 ②本学の教育資源を地域に還元するために、市民公開講座およびセミナー等の実施を目指す。
(3) 地域連携・貢献の体制整備	①全学的な取り組みの成果が公開されることにより、本学の地域貢献を学内および学外で明確にする。

⑥ 学生支援

基本計画	2018年度までの到達目標
協定締結校の見直し	互恵性に基づく姉妹校・協定校・認定校との活発な相互交流が行われている。
学生の海外体験の機会の拡充	すべての学生が、在学中に海外体験の機会を得ることができる。

⑥ 学生支援

基本計画	2018年度までの到達目標
障害学生支援体制の整備と学生相談室の充実化	学生支援の核となり得る安定した位置づけの専門的學生相談機関が整備されている。
学生表彰制度の充実化	推薦者となる教職員は学生の長所を発見しようとする意識が高まり、また学生自身は関係教職員が見て認めてくれているという意識から、さらに意欲的に自己研鑽に励んでいる。

学生支援

基本計画	2018年度までの到達目標
低学年対象の就職支援プログラムの構築	①就職希望者数の増加及び就職率を高く維持する。 ②北九州市内・山口県内就職者をさらに増加させる。 ③就職・進路支援から学生のドロップアウトを減少させる。

入学試験・学生募集

基本計画	2018年度までの到達目標
入学者選抜の改革	①新しいAPを決定し、ホームページなどで公表している。 ②入試形態を見直して、大学入試新テストにも円滑に移行できる適切な入学者選抜法を決定している。
学生募集活動の改革	①本学の社会における価値や外部状況を把握している。 ②高校生や保護者にPRする有効な方法を確認している。 ③各学科で入学定員の8割以上を充足させている。

研究倫理・研究推進

基本計画	2018年度までの到達目標
<p>研究倫理・研究推進のための情報収集・連絡調整の実施と 研究倫理・研究推進部門の検討</p>	
<p>本学の研究推進のための必要な情報の収集・分析・提示，研究推進のための連絡調整を図る。</p>	<p>①研究倫理・研究推進のための情報収集・連絡調整の実施責任者とチームが示され，運用している。</p>
<p>倫理審査委員会及び研究不正の防止に関する取り組み</p>	
<p>今日求められている研究倫理に沿った教職員の研究活動を支援する。</p>	<p>①新規程の説明会はすべての教職員が受講している。 ②すべての教職員が本学の倫理教育あるいはCITI-Japanを受講している。 ③倫理審査が適切に実施され，研究終了・中止・経過報告等が行われている。 ④倫理審査委員会の情報公開が適切になされている。 ⑤告発窓口が整備され，学内外に示されている。</p>
<p>外部資金導入促進プロジェクト</p>	
<p>外部資金の導入により，本学の教育研究の基盤整備を行う。</p>	<p>①全学科より科研費申請が行われ，総件数が年間25件を超え，さらに平均的な採択率を維持している。 ②科研費以外の国や地方自治体等の競争的資金等による研究活動がいくつか継続している。</p>

研究倫理・研究推進

基本計画	2018年度までの到達目標
保健福祉学部附属保健福祉学研究所	
<p>研究活動の基盤整備を進める。</p> <p>教育活動の改善充実を目指す研究，地域の保健福祉の諸問題の解明につながる研究を奨励する。</p>	<p>①教員の研究へのニーズが明確になり，若手研究者へのサポートが展開できている。</p> <p>②全学科より科研費申請が行われ，総件数が年間25件を超えており，平均的な採択率を維持している。</p> <p>③学科を超えた共同研究，教育実践や地域貢献活動を対象とした研究プロジェクトが進行している。</p> <p>④優先順位を決めて研究基盤の整備が行われている。</p>
動物実験委員会	
<p>実験動物の飼育管理と動物実験を適切に実施する。</p>	<p>①動物実験を適切に実施している。</p> <p>②飼育動物（ラット）を適切に飼育している。</p>
公的研究費運営管理会議（仮称）とコンプライアンス教育	
<p>公的研究費の適切な運営管理の実施</p>	<p>①公的研究費を適切に運営・管理している。</p> <p>②公的研究費不正防止計画を立案し，公開のうえ，実施，見直しを行っている。</p> <p>③公的研究費を使用又は管理している教職員，応募しようとしている教職員はコンプライアンス教育を終えており，誓約書を提出している。</p> <p>④告発窓口が内外に示され，適切な対応が行える組織体制が整っている。</p>